

## 離宮八幡宮

貞観元年(859)、清和天皇が国家鎮護のために八幡神を京の近傍に移座するという勅命を発し、豊前国宇佐八幡宮(現在の大分県宇佐市)より当地に遷座されたことを由来とする。嵯峨天皇の河陽離宮の故跡にあることから離宮八幡宮と呼ばれるようになった。祭神は応神天皇、酒解大神、比売三神。本殿ほか社殿は国登録文化財。

「離宮八幡宮文書」は、総数三百七十六点を存している。貞応元年(1222)十二月十七日六波羅下知状は、大山崎神人の美濃国不破関々料を免除したのものとして有名。現在も「油祖」として全国の製油関係者からの篤い崇敬をうける。

## 妙喜庵

臨済宗東福寺を本山とする禅宗寺院で創建は室町時代明応年間(1492~1501年)と伝わる。もとは隣接する地藏寺の塔頭であった。

国宝の茶室「待庵」は、国宝茶席三名席(待庵、如庵、大徳寺龍光院書院密庵)の中で千利休作と信じる唯一の遺構とされる。

重文の「書院」(本堂)は、室町時代末の建立と推定される。

## 大念寺

浄土宗知恩院の末寺。山号は見佛山、弘治元年(1555)、知恩院第二十七世徳誉光然が離宮八幡宮筆頭社家、井尻長助の財を受け開基した。後奈良天皇の勅願寺。

重文の「木造阿弥陀如来立像」は仁治二年(1241)作。木造漆箔 寄木造 像高約81cm。附指定で像内納入品がある。その中の木製阿弥陀如来種子月輪牒に、後鳥羽上皇の皇子である道覚法親王(第八十代天台座主)及び法然の高弟、西山派の証空の署名がある

<お問い合わせは>

離宮八幡宮 TEL (075) 956-0218

白玉手祭来酒解神社 TEL (075) 956-0218

妙喜庵(拝観は往復葉書での予約制)

〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町大山崎竜光 56

[masatake197@gmail.com](mailto:masatake197@gmail.com)

大念寺 TEL (075) 956-0762 (拝観は予約制)

宝積寺 TEL (075) 956-0047

聴竹居 TEL (075) 956-0030 (見学はHPからの予約制)

## 白玉手祭来酒解神社

天王山の山頂直下に所在する。大山崎町字大山崎地区の地主神である。近代以前は天神八王子社と呼ばれ、祭神は牛頭天王と八王子であった。天王山の名称は当社からとられたもの。

重文「神輿庫」は屋根切妻造本瓦葺き、板倉造り。年輪年代法による調査で鎌倉時代初期の部材が確認された。国内に現存する板倉形式の建造物としては正倉院正倉中倉に次いで二番目に古い。本殿は国登録文化財。

## 宝積寺

真言宗智積院の末寺。奈良時代神亀四年(727)、聖武天皇の祈願所として行基が開創したと伝わる。町内屈指の大寺で、多くの文化財を所蔵する。天正十年(1582)に山崎合戦で勝利した羽柴秀吉が天王山に山崎城を築くが城を「寶寺城」と記す史料があり、寺域を含む山内一帯が山崎城に組み込まれたとみられる。

重文は多数。本尊の十一面観音立像は天福元年(1233)造立。京都院派の大仏師院範および院雲の作。宝積寺五冥官群像は鎌倉時代作。13世紀中葉の特色を持ち鎌倉時代冥官像の代表的な作品として名高い。仁王門の金剛力士立像(阿形、吽形)、板絵著色神像(京博寄託)も鎌倉時代のもの。

## 聴竹居

京都帝国大学教授、藤井厚二の自邸として本屋・閑室が昭和3年(1928)に建てられた。藤井は大正2年(1913)に東京帝国大学工科大学建築学科を卒業後、合名会社竹中工務店で設計にたずさわった後、欧米6ヶ国への海外視察を経て、同9年に京都帝国大学工学部講師となる。それを機に大山崎に移り住み、日本の住宅の改良に関する研究を進めつつ当地で自邸を繰り返し設計、建築して試行を重ねた。そして自身の理論に基づく住宅の完成形として第5回目の自邸である「聴竹居」を完成させた。施工は大工、酒徳金之助。本屋・閑室と茶室(1931年築)の三棟が敷地内に所在する。

